

出資法人等評価・カルテシート（平成 27 年度分）

1 出資法人等の概要

団体名	公益財団法人豊中市スポーツ振興事業団		
所在地	豊中市服部西町 5-1-1	所管部局・課	都市活力部 スポーツ振興課
設立年月日	昭和 62 年 6 月 4 日	代表者	理事長 桑村 三十三
基本金・資本金	基本財産 100,000,000 円	うち市出資額（率）	100,000,000 円（100%）
設立目的	豊中市及び豊中市教育委員会との緊密な連携のもとに、体育施設の効果的・効率的な活用を促進するとともに、各種市民団体との協働を基本とした生涯スポーツを推進することにより、市民が広くスポーツに親しみ、豊かな人間性の涵養と健康で活力に満ちた明るい市民生活の実現に資することを目的とする。		

2 役員・職員関係

各年 4 月 1 日現在

		H25			H26			H27		
		市派遣	市OB		市派遣	市OB		市派遣	市OB	
役員	常勤	2	0	1	2	0	1	0	0	0
	非常勤	4	0	0	5	1	0	7	0	3
職員	常勤	16	0	0	16	0	1	16	0	3
	非常勤	117	0	2	137	0	2	138	0	1
役員の平均年間報酬（H26年度、千円）※常勤のみ		0			職員の平均年間給与（H26年度、千円）・平均年齢 ※常勤のみ			5,044 千円・39.7 歳		

3 財務関係

		金額（千円）		
		H24	H25	H26
損益計算書	総収入	745,228	704,759	714,778
	（うち市受入金）	576,023	576,433	588,228
	総費用	724,689	712,712	717,984
	経常損益	20,539	▲7,953	▲3,206
	当期損益	20,539	▲7,953	▲3,206

		金額（千円）		
		H24	H25	H26
貸借対照表	資産の部合計	302,058	261,067	261,418
	負債の部合計	142,857	114,119	119,852
	（うち有利子負債）	—	—	—
	純資産	159,201	146,948	141,566
	利益剰余金	159,201	146,948	141,566

4 市の財政的関与の状況

(単位：千円)

		H24	H25	H26	主な内容、算出根拠等
フロー	補助金	5,150	5,150	5,150	事業運営費補助金
	管理費	—	—	—	
	運営費	5,150	5,150	5,150	地域連携事業
	委託料	3,873	4,283	4,437	健康支援室、こども未来部
	指定管理委託料	567,000	567,000	578,641	指定管理委託料
	その他	0	0	0	
計		576,023	576,433	588,228	
ストック	貸付金残高	—	—	—	
	債務保証残高	—	—	—	
	損失補償残高	—	—	—	
	出資金	100,000	100,000	100,000	昭和62年度出資
	その他	—	—	—	
計		676,023	676,433	688,228	

5 経営の状況

(1) 出資法人等の主な事業

事業名	事業内容	活動指標	H24	H25	H26
スポーツ教室	幼児から高齢者まで多くの市民が身近にスポーツで出会い、生涯にわたってスポーツに親しむ機会となるよう各種スポーツ教室を実施。	教室受講者数	129,203	121,282	118,473
水泳教室		教室受講者数	73,222	77,336	77,640
短期教室	市民が参加しやすい環境づくりと、地域や施設の特徴を生かし内容に特化した教室を実施。	教室受講者数	24,340	24,608	25,394
受託事業 (こども未来部)	こども未来部と連携し、豊中市内の公立保育所へ運動指導を実施。(げんキッズプロジェクト)	実施回数	5	63	80
受託事業 (健康福祉部)	特定保健指導として実施される『内臓脂肪測定会』での運動指導。メタボリックシンドローム予防に焦点をあてた『無理しないカラダづくり講座』での運動指導	実施回数	57	20	24
受託事業 (保健体育推進チーム)	小学生の水泳授業の補助及び苦手克服のための水泳指導を目的に実施。	実施回数 学校数	3 1	10 2	5 3
共催事業 (障がい者団体)	支援が必要な子どものために指導者を派遣し、水泳・体操教室を実施。	実施回数	36	36	26

社会貢献事業 (中学校早朝解放)	豊中市中学校水泳部のオフシーズン中の練習場の提供及びプールの清掃活動	実施回数	59	98	100
社会貢献事業	地域・学校・大学・各種団体等と連携し幅広い事業を実施。	事業数	11	15	13
地域貢献事業	各種地域団体等と連携して事業を実施。	事業数	3	10	12
地域交流事業 (二ノ切温水プール)	地域との交流イベントとして小中学生を対象に水中運動会・餅つき大会を実施。	申込者数 (水中運動会) (もちつき大会)	195 65	236 61	222 52

(2) 財務指標

指標	視点	内容	H24	H25	H26
市受入金比率 市受入金／経常収益×100	自立性	市への財政的依存度を表わします。一般的に数値が低いほど、財政的に自立性が高いといえます。	77.2%	81.8%	82.3%
人件費比率(%) 人件費／経常費用×100	効率性	数値が低いほど財務の弾力性が高いといえます。総支出における相談業務等のマンパワーが業務の中心となる団体については高くなる傾向にあります。	25.3%	28.0%	26.7%
管理費比率(%) 管理費／経常費用×100	効率性	コスト体質を表すもので、一般的に数値が低いほど効率が良いとされます。	1.0%	1.1%	1.3%
正味財産比率(%) 正味財産合計／(負債＋正味財産合計)×100	安全性	負債及び正味財産合計に対する正味財産合計の割合。自己資本の比率が高いほど資本構成が良く、経営の安全性が高いといえます。	52.7%	56.3%	58.4%
固定比率(%) 固定資産／正味財産合計×100	安全性	正味財産合計に対する固定資産の割合。固定資産を返済不要な正味財産合計でまかなわれているかを表わします。100%未満であれば安全性が高いといえます。長期的な経営の安全性を示しています。	107.5%	115.4%	96.0%
流動比率(%) 流動資産／流動負債×100	安全性	1年以内に返済を要する負債に対する1年以内に資金化できる資産の割合。数値が高いほど支払い能力が高いといえます。100%を下回る場合は注意が必要です。	128.9%	127.5%	145.9%

(3) その他

ア 給与体系

区分	<input type="checkbox"/> 独自体系 <input checked="" type="checkbox"/> 市の体系を準用(平成25年度制度策定。平成26年度新給料表へ本格付。平成26年度支給額は平成25年度豊中市の給料表より支給) <input type="checkbox"/> その他
見直し予定	<input type="checkbox"/> 予定あり(平成 年度予定) <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> 済み(平成27年4月)

イ 情報公開

公開ツール	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ(URL: http://www.spotoyo.com) <input type="checkbox"/> 広報紙 <input type="checkbox"/> 事務所備え付け <input type="checkbox"/> その他()
公開内容	<input checked="" type="checkbox"/> 定款 <input checked="" type="checkbox"/> 役員名簿 <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画 <input checked="" type="checkbox"/> 事業報告 <input type="checkbox"/> 経営計画 <input checked="" type="checkbox"/> 財務諸表

ウ 指定管理者の状況

施設名	指定管理期間	備考
・体育館4館、武道館ひびき、高川スポーツルーム	平成23年4月から平成28年3月	共同事業体として受託
・温水プール2館	平成23年4月から平成28年3月	

6 経営上の課題

<p>①自主財源比率の拡大⇒受託事業等の財団独自事業の大幅拡大。</p> <p>②コンプライアンスの向上⇒財団組織における透明性・適正性を内外に示すため、各種制度・規則の明確化、内容精査を行う。</p> <p>③財団ビジョン・アクションプランの実現⇒豊中市が示す財団の役割を果たすため、財団ビジョンに基づいた、アクションプラン（具体的な取組み）を進める。</p> <p>④人材育成⇒人材育成プランに基づいた研修制度の充実を図る。</p> <p>[現状：人事制度の実施、給与制度の実施]</p>
--

7 経営改革の取組み（平成26年度）

項目	取組み内容	今後の課題・方向性
運営方針の明確化	豊中市長の施政方針を受けて、年度当初に理事長から今年度の運営方針を示し、方針に基づき持続可能な財団運営を進める。	現在の取組みを継続する。
年度目標の設定	各課・各施設・各プロジェクトチームで年間のスケジュールと事業の目標設定をし、事業・予算において進行管理を進めるとともに、職員間の目標・意識統一を目的とする。	組織評価制度を確立するため、業務評価の基準を検討する。
プロジェクトチームの設置	プロジェクトチームを設置し、次期指定管理公募に向けた取組みを進める。 また、任期付職員の処遇（経験者採用、30時間、40時間等）について検討を行う。	次期指定管理公募については引き続き取組みを進めていく。任期付職員の処遇については引継課において取組みを進める。
人事評価の実施	年度当初に職務目標設定を各職員が行い、目標達成に向けて業務に取り組む。評価者に対して、共通理解を深める研修を実施。	評価者研修等を実施し、安定した評価制度運用にむけ取組みを進める。
財団ビジョン・アクションプランの遂行	財団ビジョン（持続可能な財団運営）の実現に向け、豊中市・豊中市教育委員会及び各種団体と連携し、アクションプランを遂行する。	予定通りに進められていない項目についての再スケジュールリングが必要。
人材育成プランの遂行	人事制度・研修制度・給与制度の本格運用に向けて取組みを進める。	研修制度の充実を進める。
事業の拡大	持続可能な財団運営を進めるために、豊中市等と協働・連携した事業の拡大を進め、財団がスポーツ専門職としての役割を果たす。	高齢者、障害者へスポーツの専門家としてアプローチを進める。

8 出資法人等の自己評価

評価の視点	評価	今後の取り組み方針
<p>必要性</p> <p>・実施事業は、社会状況、環境変化や市民ニーズに適合しているか</p>	<p>豊中市のスポーツ推進ビジョンにおける、当財団の役割、使命を果たすために、これまで培った経験やノウハウを活用していくために、財団ビジョン・アクションプランを策定し、それに基づき各事業を実施した。</p>	<p>アクションプランの4つ柱①生涯スポーツの推進、②各種市民団体との協働、③健康づくりの支援、④効率的で多様なサービスの提供を軸に公益性の高い事業を拡大していきたい。</p>
<p>効率性</p> <p>・人的・物的な経営資源は有効に活用しているか</p> <p>・組織体制、人事給与水準は適正か</p>	<p>現状の事業実施については、人的・物的経営資源を最大限に有効活用している。</p> <p>また、人的経営資源を有効活用するため、職員のやりがいを高めるために、人事給与制度及び研修制度の2本柱からなる人材育成プランに基づき取り組みを行った。</p>	<p>豊中市のスポーツ振興へ寄与するためには、財団の財源の確保・有効活用は必要である。</p> <p>しかしながら、指定管理事業における光熱水費の高騰などは財団全体の財源に大きな影響を及ぼしている。</p> <p>豊中市のビジョンで明らかにされた、財団の役割を全うし、使命を果たすために自主財源の確保が急務だと認識し、自主財源のPTを立ち上げるなど、安定して財源を確保するための取り組みを強化していく。</p>
<p>有効性</p> <p>・意図する成果に有効に結びついているか</p>	<p>事業ごとに目標を明確に定めて取組を行うとともに、評価を行っている。概ね、意図する成果に結びついていると評価している。</p> <p>特に26年度は、保育幼稚園室からの受託事業である、「げんキッズプロジェクト」の実績を評価していただき、教員向け・保護者向けの所内研修の受託へ拡充することができた。各事業を円滑に遂行実施するのは当然の目標であり、次の展開を見据えた事業展開ができた1年であった。</p>	<p>引き続き、様々な団体との連携を深め、アクションプランに基づく公益性の高い事業の拡大に努めていきたい。</p>
<p>総合評価</p>	<p>アクションプランに基づく1年目を、上記に記載のとおり、市民のニーズに合った事業を効率的・有効的に実施できたと評価する。また、事業拡大に向けての土台作りとして、財団の認知度向上、関係団体との連携を強化できた1年でもあった。</p>	<p>豊中市スポーツ推進ビジョンに基づいた、財団ビジョン・アクションプランの遂行が、豊中市の出資法人として評価されることだと認識している。アクションプランどおり各種事業を進めるとともに、それらを安定して実施していくために収益事業の拡大に取り組んでいきたい。</p>

9 市による評価

評価の視点	評価内容	課題・方向性
団体の存在意義 (必要性) ・出資目的は薄れていないか ・市の施策の方向性に適合しているか	<p>「豊中市スポーツ推進計画（平成 26 年 3 月策定）」の中で、財団は、本市のスポーツ推進を図るために、重要な役割を担っています。</p>	<p>「豊中市スポーツ推進計画」の各事業における目標を達成するために、課題を整理し、具体的な取り組みを進めていく必要があります。</p>
団体の活動領域 (効率性・有効性) ・出資法人等を活用するメリットはあるか ・出資法人等にしかできないことか	<p>スポーツ活動を通じて、障害のある人の社会参加、自立支援を進めることができました。また、地域と協働で、各体育施設においてさまざまな事業を実施することにより、近隣の市民に体育施設を PR することができました。</p>	<p>今後も、出資法人等にしかできないこととして、①「市民の健康づくりを推進する事業」②「障害者のスポーツ推進を図る事業」③「地域や関係団体と連携し、地域でのスポーツ推進を図る事業」の 3 つの事業を中心に展開していく必要があります。</p>
団体と市との関係性 (効率性・有効性) ・事業の成果が市の施策の推進にどれだけ貢献しているか ・市の関与は適切か	<p>所管部局であるスポーツ振興課をはじめ、その他部局とも積極的に連携、協力しさまざまな事業を実施することにより、市のスポーツの推進に貢献することができました。</p>	<p>今後は、庁内部局だけでなく、豊中市体育連盟及び豊中市スポーツ推進委員協議会とも積極的に連携し、効果的・効率的に「豊中市スポーツ推進計画」の推進に貢献することを期待します。</p>
総合評価	<p>「豊中市スポーツ推進計画」をふまえ、子どもから高齢者まで身近なところで、各々のライフステージに応じたスポーツ活動を継続して実践できるよう、スポーツの推進が行われています。特に、障害者を対象とした事業や、地域と連携した事業に取り組みむとともに、市関係部局とも積極的に連携し、さまざまな事業を実施していることについては評価できます。</p>	<p>今後も、「豊中市スポーツ推進計画」における課題である「市民スポーツ実施率の向上」に繋がる取り組みを多様な主体との連携・協働により推進していくことを期待します。</p>